

ファシリテーション各論Ⅱ

—授業に活用するファシリテーション—

教育ファシリテーション研究所/星槎大学大学院

教育学博士/言語聴覚士

三田地 真実



独立行政法人教職員支援機構

ファシリテーション動画の全体構成

1. ファシリテーション総論
2. ファシリテーション各論Ⅰ
(会議・話し合いに活用するファシリテーション)
3. ファシリテーション各論Ⅱ (本動画)
(授業に活用するファシリテーション)
4. ファシリテーション各論Ⅲ
(学校経営に活用するファシリテーション)

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

1. 教育活動とは？

- ① 特定の対象（学校教育では、児童生徒）に対して
- ② 何らかの働きかけ（学校教育では、学習指導と生徒指導）を行い
- ③ 対象がよい方向に変化する（学校教育では指導効果がみられる）過程

出典：桜井（2004）「教育心理学」

1. 教育活動とは？

- ① 児童生徒に対して
- ② 学習指導と生徒指導を行い
- ③ 指導効果がみられる過程

過程 = プロセス

なりゆき任せ
= プロセスに無頓着

VS

場を整える
= プロセスに注意を払う

1. 教育活動とは？（桜井、2004、p. 12）

- ① 児童生徒に対して
- ② 学習指導と生徒指導を行い
- ③ 指導効果がみられる過程

過程 = プロセス

プロセスに注意を払って学習指導や生徒指導を行う！
= ファシリテーションの活用

総論の復習「3. プロセスとコンテンツ」

例：同じ内容を教えていても
「流れ」=プロセスが違う！！



コンテンツ = 内容 (*What* to teach)
プロセス = 過程 (*How* to teach)

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

2. 教育の3つの方法

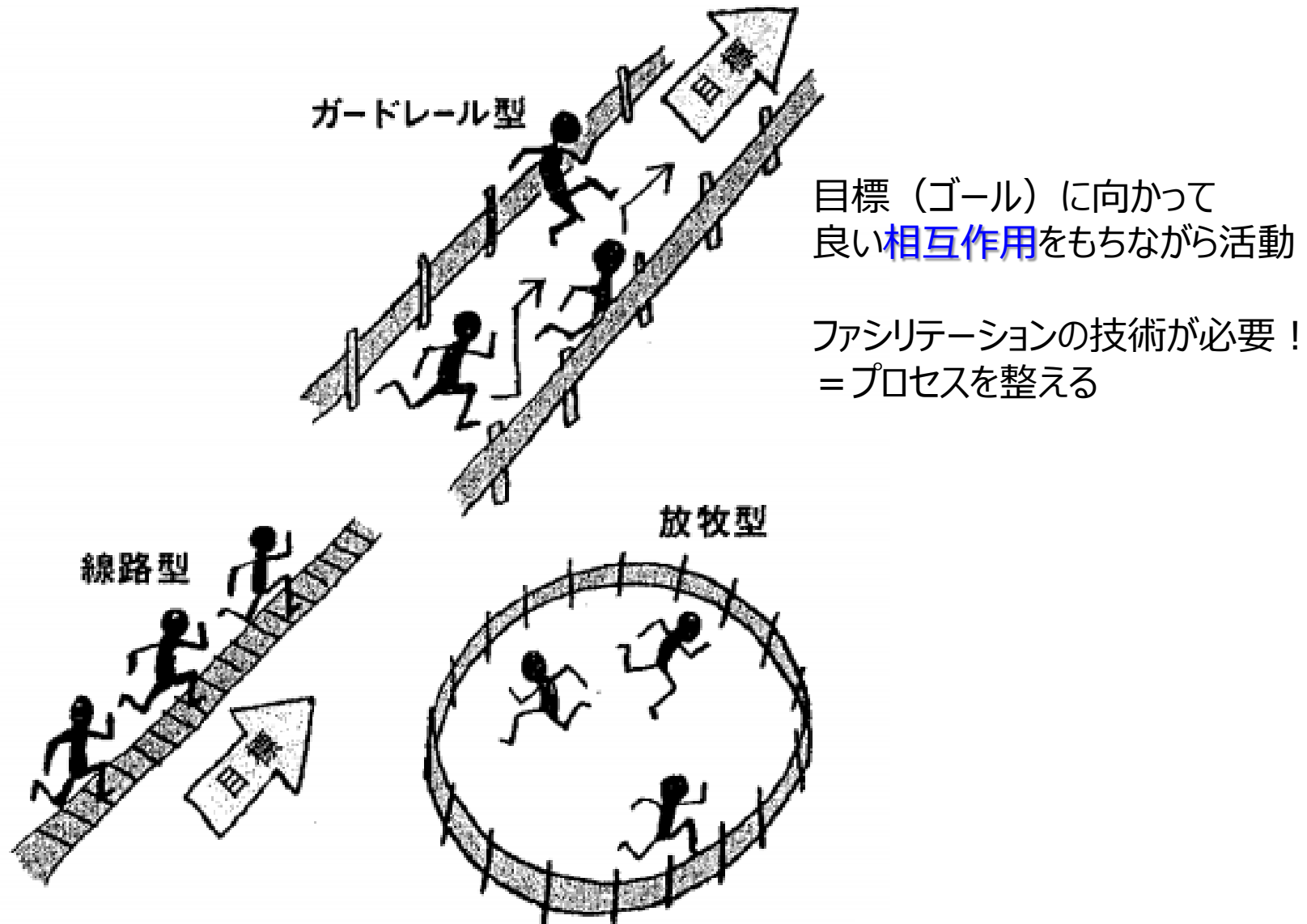


図2 教育の3つの方法のイメージ図

出典:「ファシリテーター行動指南書」

2. 教育の3つの方法 ミニ演習

グループワークの場面にて：

教示1：「今聞いた話について、聞いた内容をそのまま話してください」⇒線路型

教示2：「今から、自由に話してください」⇒放牧型

教示3：「今聞いた話について、自分が感じたこと、疑問に思ったところをまず紙に書いて、それから発表し合ってください」⇒ガードレール型

過程 = プロセスが変わる

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

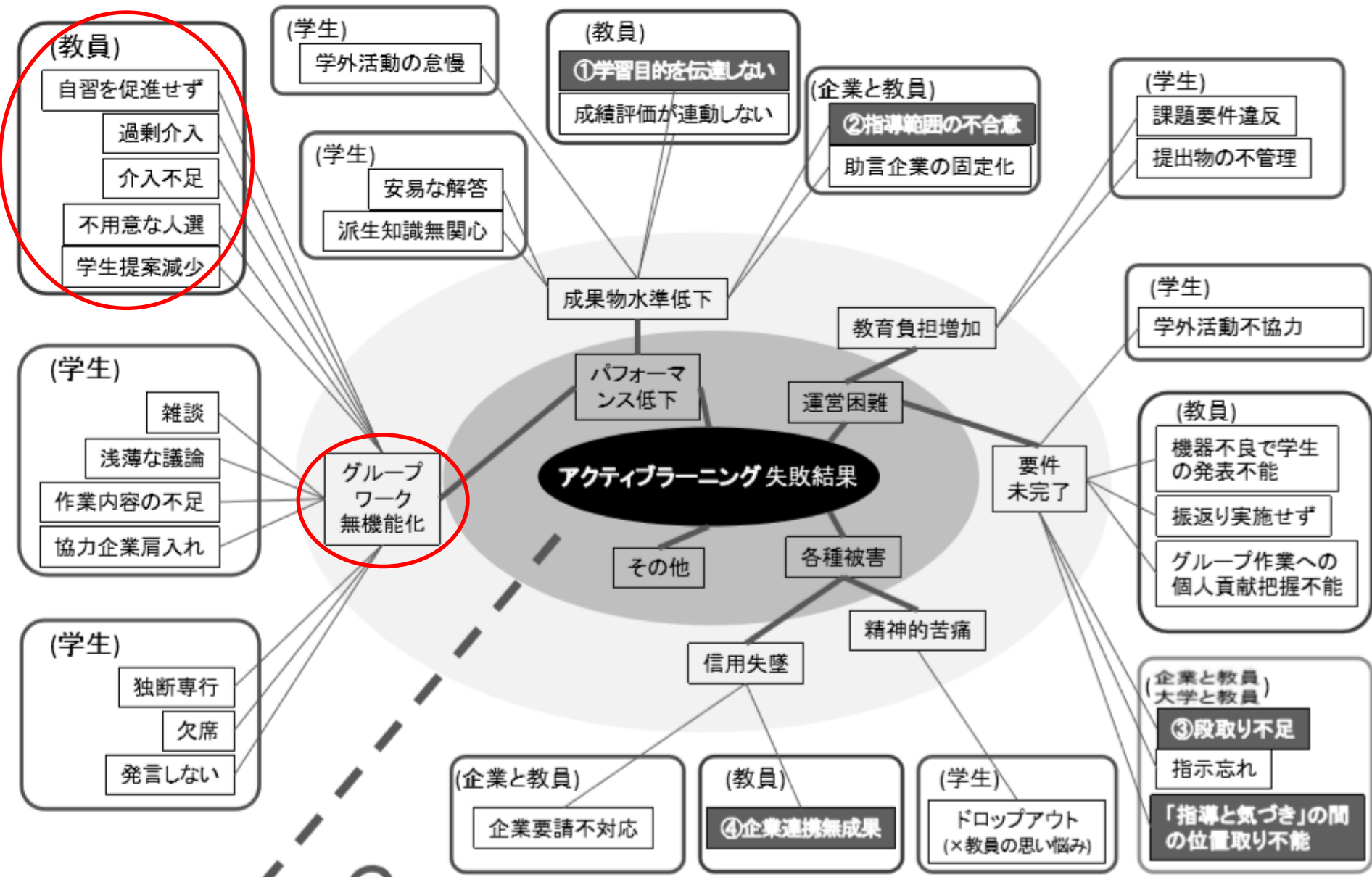
3. グループワーク

グループワークがうまくいかないとは？

- ・ 発言が活発に出ない
- ・ 発言者が偏っている
- ・ 雑談になっている

具体的な**児童生徒の行動**からの見直し

アクティブラーニング失敗結果マンダラ



個別授業の教育問題から、(大学の)仕組みやカリキュラム問題へ

3. グループワーク失敗事例

対面とオンラインの違い

	対面のグループワーク	ブレイクアウトセッション
教員の姿	教室内で見えている すぐに質問できる	基本は見えなくなる
他のグループの様子	教室内で他のグループの様子も見えている	他のグループの様子は全く見えなくなる
困ったことが起きた時	教員にすぐに尋ねられる	すぐに教員に助けを呼べない
終わり時間がわからないとき	教員にすぐに尋ねられる	すぐに教員に尋ねられない



3. グループワーク

コロナ禍で**オンラインのグループワーク**（例：ブレイクアウトセッション）での失敗予防のため

ブレックアウトセッションを上手にファシリテートするコツ

Seisa University

星槎大学

ここだけは押さえておきたい！

**ブレックアウトセッションを
上手にファシリテートするコツ**

2020/8/2
星槎大学大学院教育学研究科
三田地 真実
(全学FD委員会委員長)

3. うまくいくグループワーク

機能しているグループワーク

- ① 複数の学生が集まっている
- ② 相互作用がある＝話をする
- ③ 何らかの教育的効果をもたらす
 - ・ 教師側が設定した目標
 - ・ 教師側が設定していない何らかの効果をもたらす場合（ゴールフリー）

プロセスをどうやって整えるか？

出典：三田地（2018）

グループワークの場面にて：

教示1：「今聞いた話について、聞いた内容をそのまま話してください」⇒線路型

教示2：「今から、自由に話してください」⇒放牧型

教示3：「今聞いた話について、自分が感じたこと、疑問に思ったところをまず紙に書いて、それから発表し合ってください」⇒ガードレール型

過程 = プロセスが変わる

再掲： 2. 教育の3つの方法

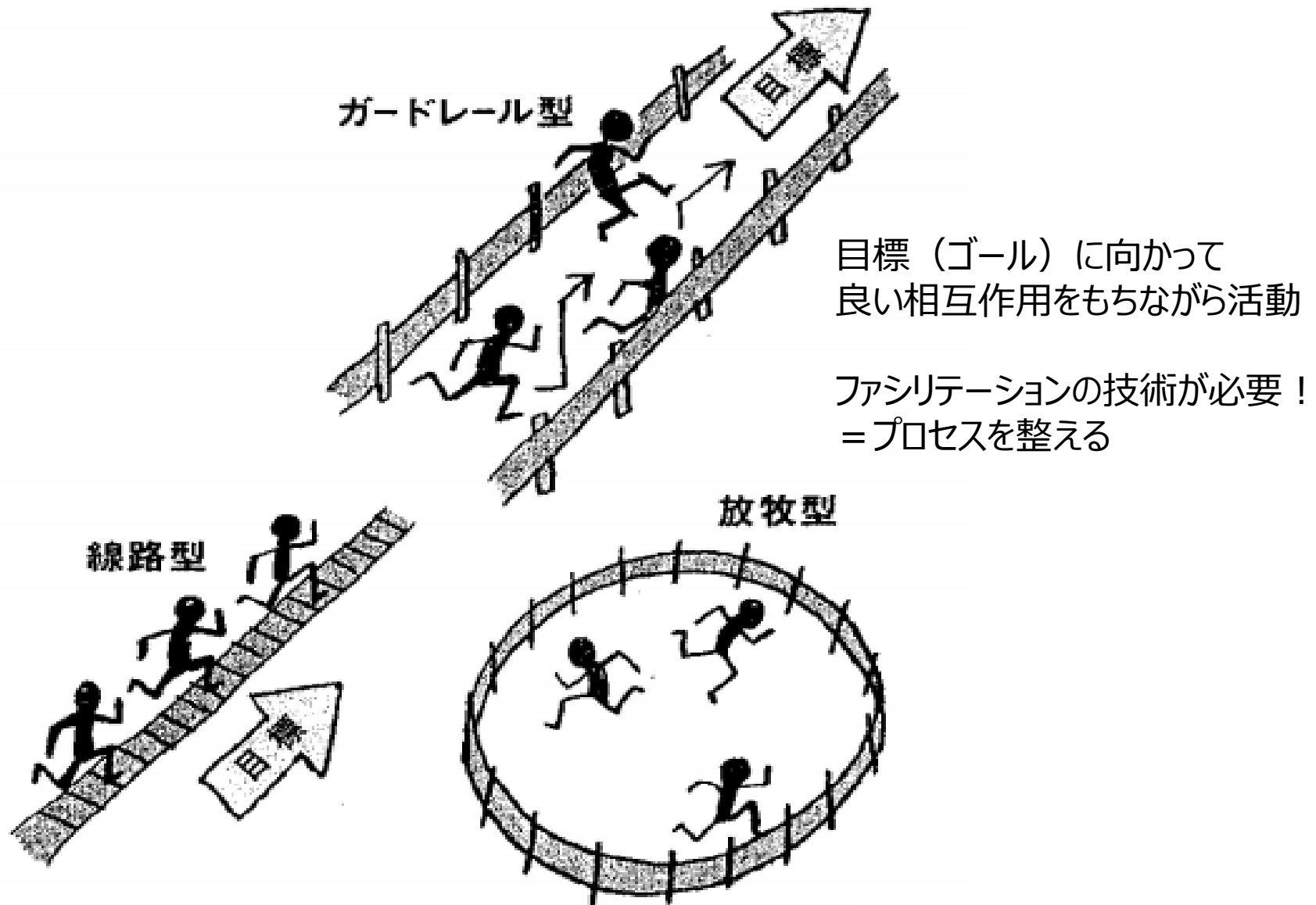


図2 教育の3つの方法のイメージ図

出典:「ファシリテーター行動指南書」

3. アクティブ・ラーニング型授業 教示例

表2 教師のインストラクションとそれに対応する学生の反応（仮説的データによる）

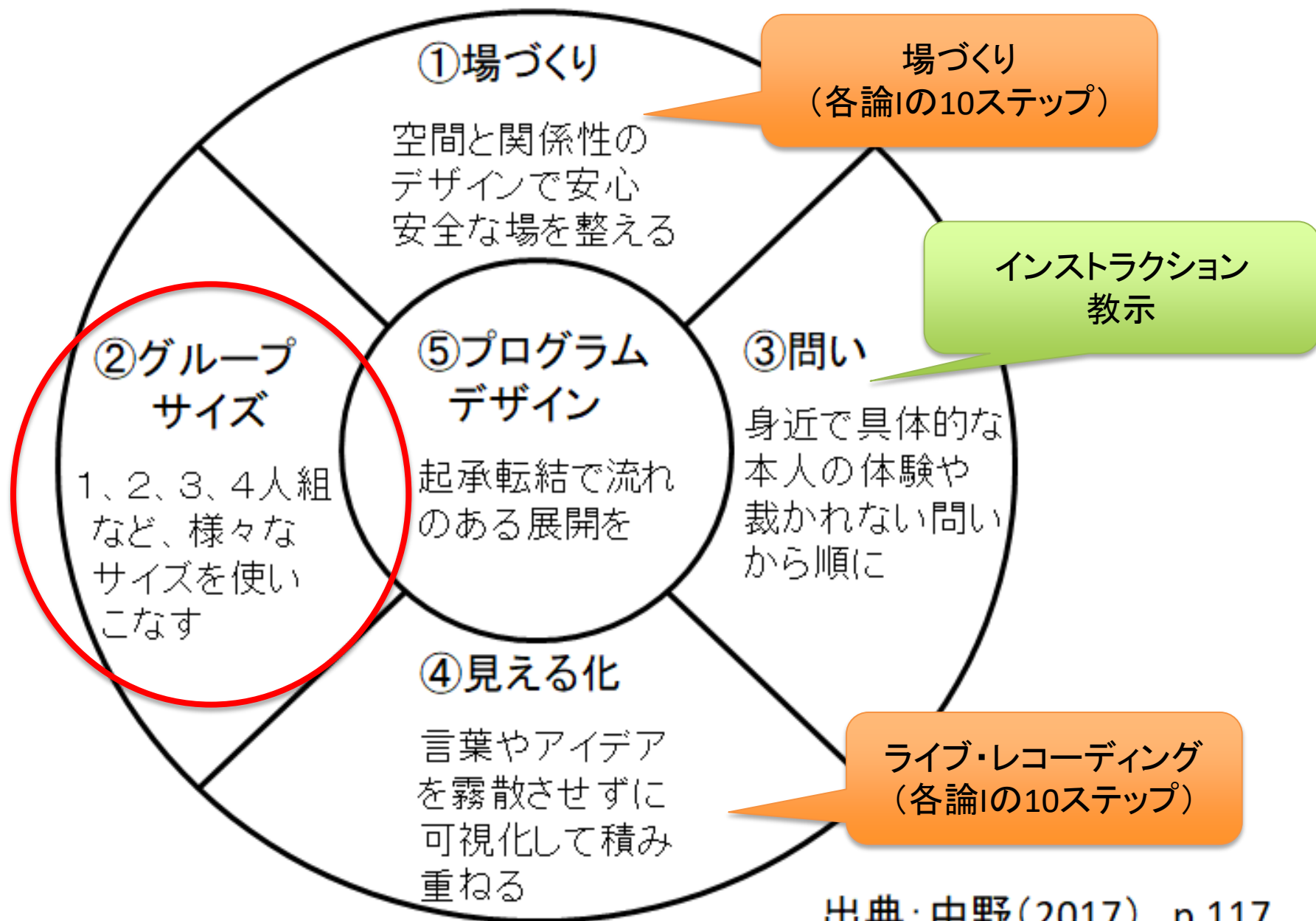
パターン	教師のインストラクション	学生の反応（期待する行動がどの程度出現したか）	インストラクションについての解説
(a)	（教師からの直接の教示なし。教師は、授業の前には読んでくるのは当たり前と考えている状態。）	ほとんどの学生は読んでこない。	教示なし状態 （主体的に読んで欲しいと思っているがゆえに教示しない。）
(b)	「 <u>テキストをよく読んでおくように</u> 」とだけ教示する。	1割位の学生は読んできた。	曖昧な教示状態 （具体性に欠けている）
(c)	「 <u>テキストの該当する箇所</u> を読んでおくように」と教示する。	2割位の学生は読んできた。	読むべき箇所は明示された状態（読んだかどうかは教師側には確認できない）
(d)	「 <u>テキストの該当する箇所を読んで、要約を200文字でまとめてA4で提出するように</u> 」	約60%の学生はA4紙で提出した。一部、ノートのページを破った紙で提出した。	学生がテキストを読まなければならない課題（要約を書く）を明示した状態
(e)	「 <u>テキストの該当する箇所を読んで、要約を200文字でワークシートにまとめて提出するように</u> 」（ <u>指定のワークシートも一緒に配布する</u> ）	約8割の学生がワークシートを提出した。	学生が行う課題のフレーム（ワークシートとして）を明示した状態
(f)	「 <u>該当するテキストの箇所を読んで、要約を200文字でワークシートにまとめて提出するように。このワークシートは最後の評価に関与します。</u> 」	ほぼ100%の提出率になった。	上記に加えて、この課題（要約を作成すること）に対する、後続事象（ABCフレームの【C】の部分）が明示された状態

※下線は上部の教示から加えられた箇所を示している。

出典：三田地（2018）

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

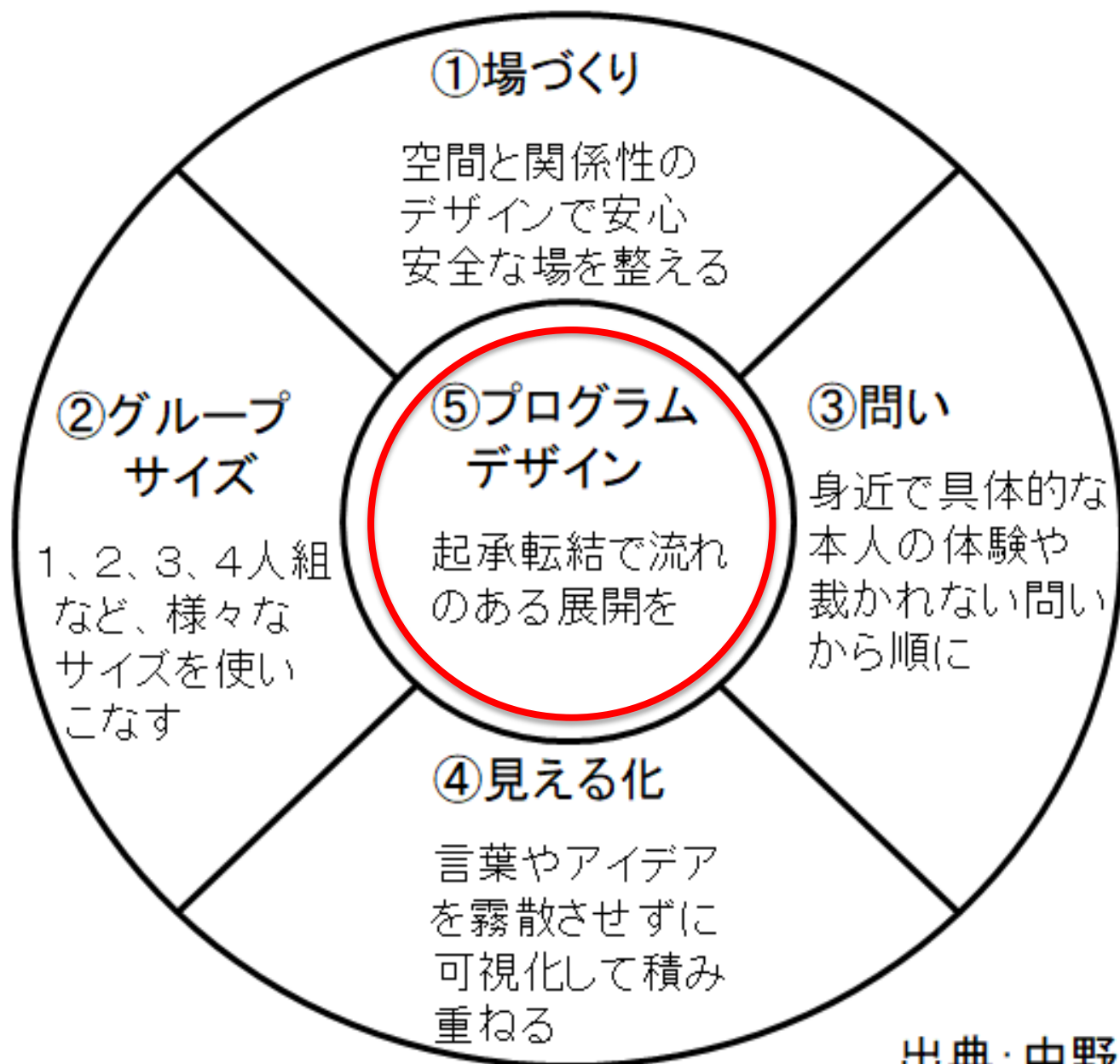


出典: 中野(2017), p.117

表 グループサイズの特徴（抜粋版）

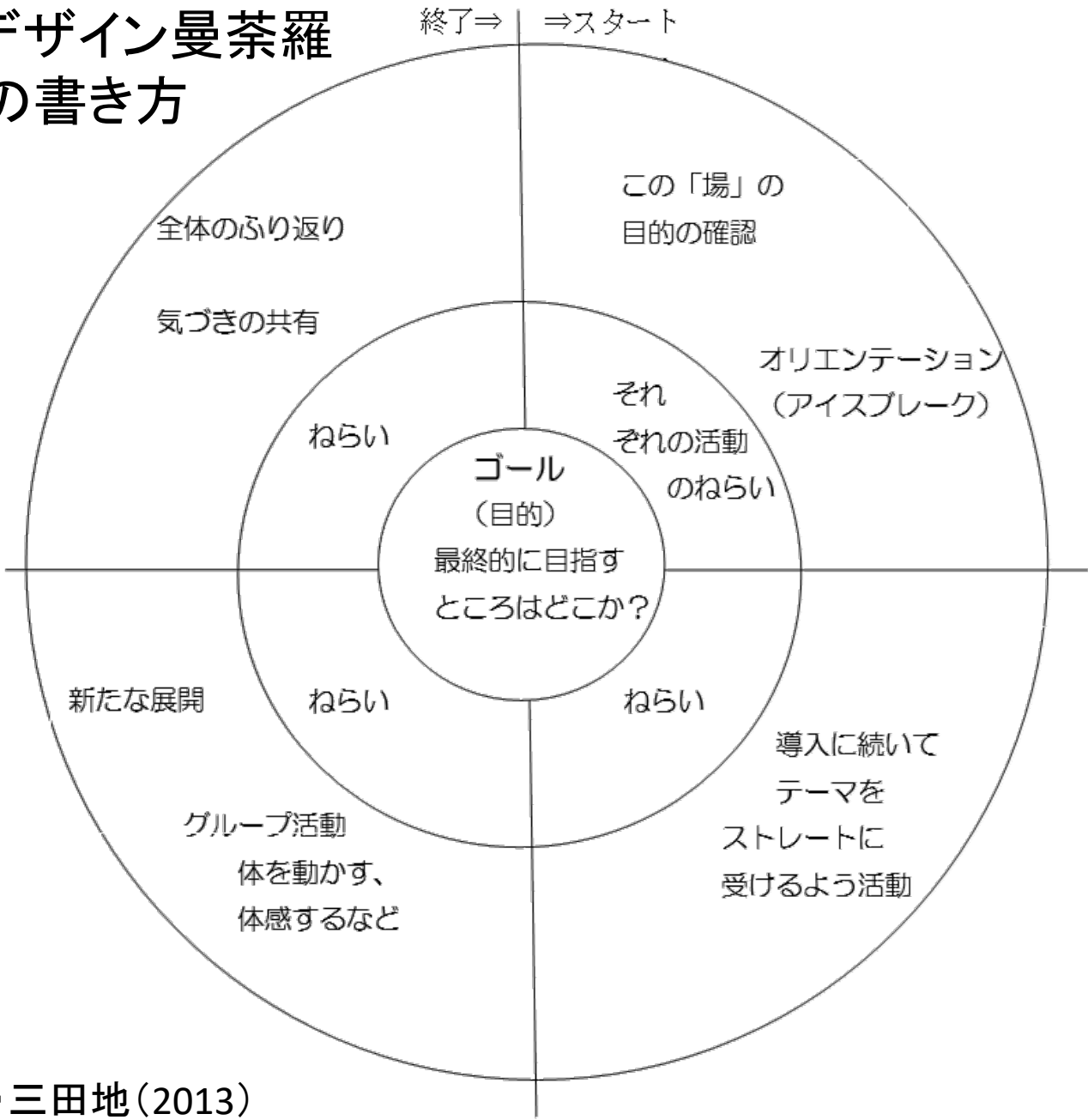
サイズ	グループの特徴	代表的な活動
2人	いわゆるペアワークの人数。ある意味強制コミュニケーション状況とも言え、話をしないではいられない設定。	ペアワーク ペアでのインタビュー
3人	話し手1名、聞き手2名となり、話し手の立場がやや目立つ。交代も可。	1対2での活動
4人	この人数では活動していないと目立ってしまうので、皆が活動しやすくなる。（影ができないとも言われる）	いわゆる班活動
5～6人	一般的なグループ活動の人数。	一般的なグループ活動
7～8人	発言しないことが目立たなくなる人数。役割分担をしっかりとしないと何もしていないという人が出てきやすい。	グループ活動としてはやや多すぎる（役割分担を明確にする必要あり）
約10人	1グループで何かを生み出すのは難しくなる。5名に分かれるなどの工夫が必要。	
約20人	全員が発言して意見を共有するギリギリの人数。	ワークショップ
約50人	大勢で活動を行うには良いが、全員で参加する話し合いには適さない。	クラスサイズ
約100人	全員で話し合っって何か意味ある成果物を生み出すには適さない。	
約200人	同上。多くが集まったことに意味があるような場になる。	ワールドカフェ

出典「ファシリテーター行動指南書」（ナカニシヤ出版、2013年）



出典: 中野(2017), p.117

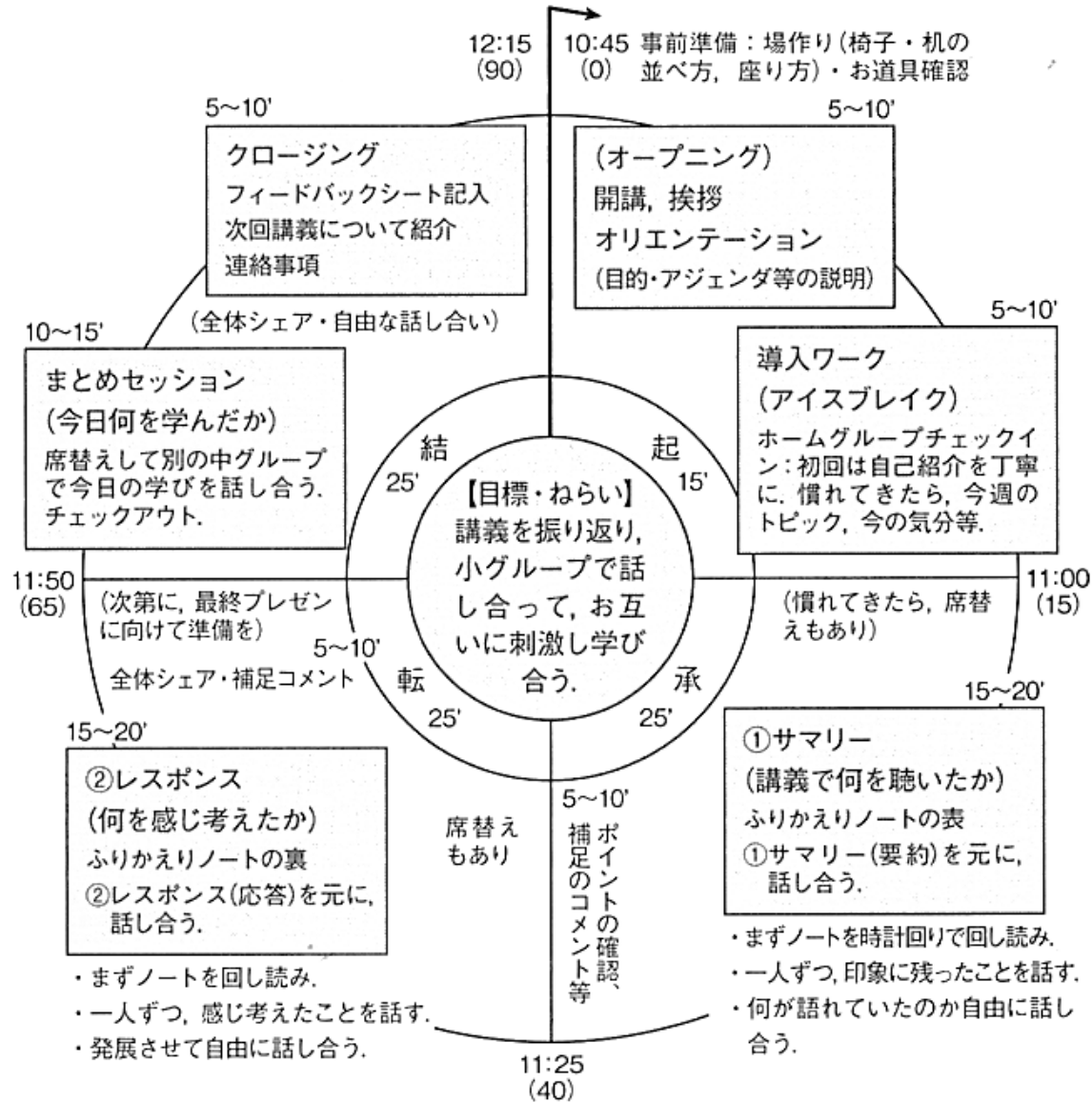
プログラムデザイン曼荼羅 基本の書き方

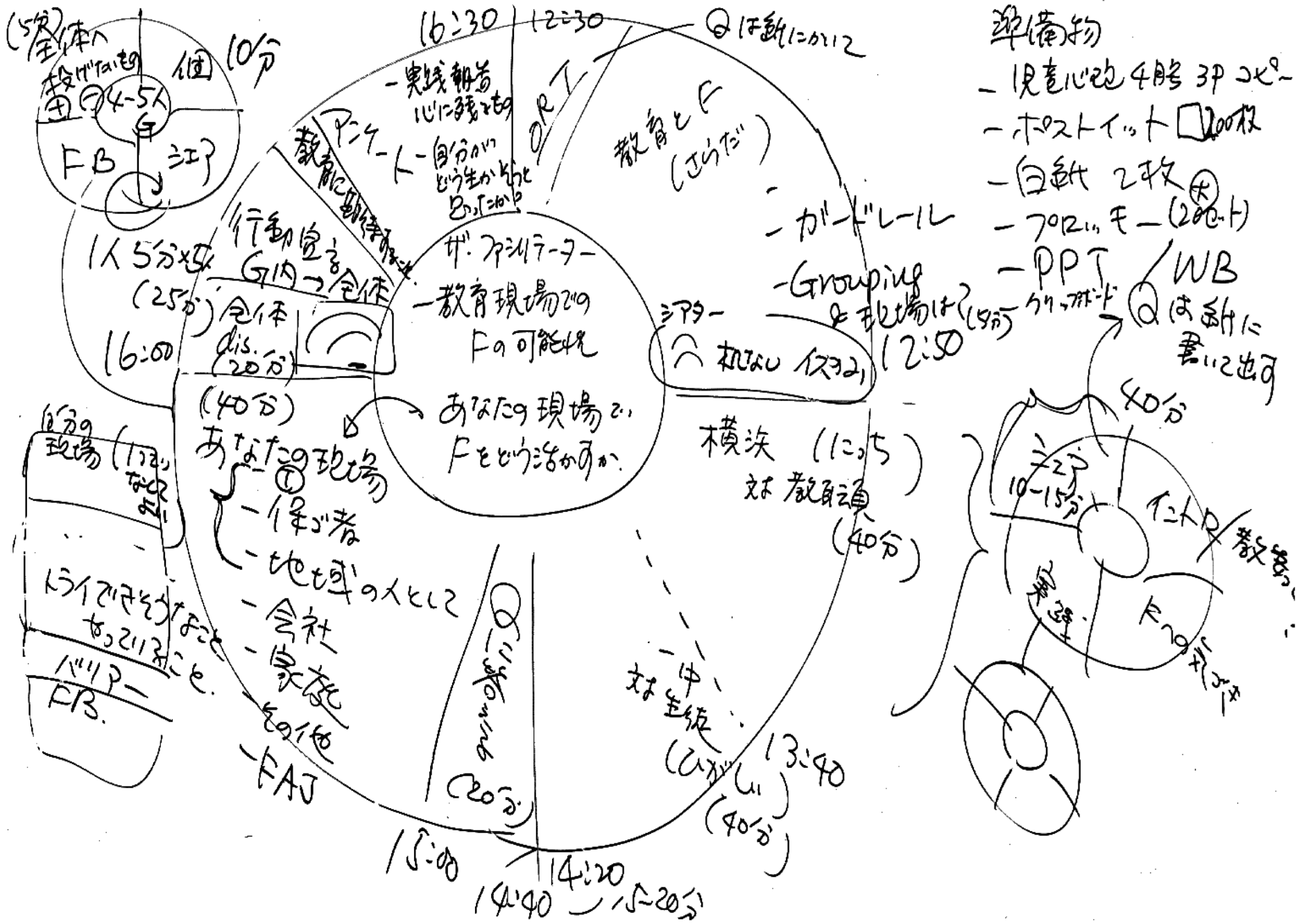


出典: 中野・三田地(2013)
「ファシリテーター行動指南書」

東工大立志プロジェクト「少人数クラス」基本進行案

プログラムデザイン曼荼羅





※ホワイトボードに書きながら

ファシリテーション動画の プログラムデザイン曼荼羅



今ここ！

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法

名古屋高等教育研究 第22号 (2022)

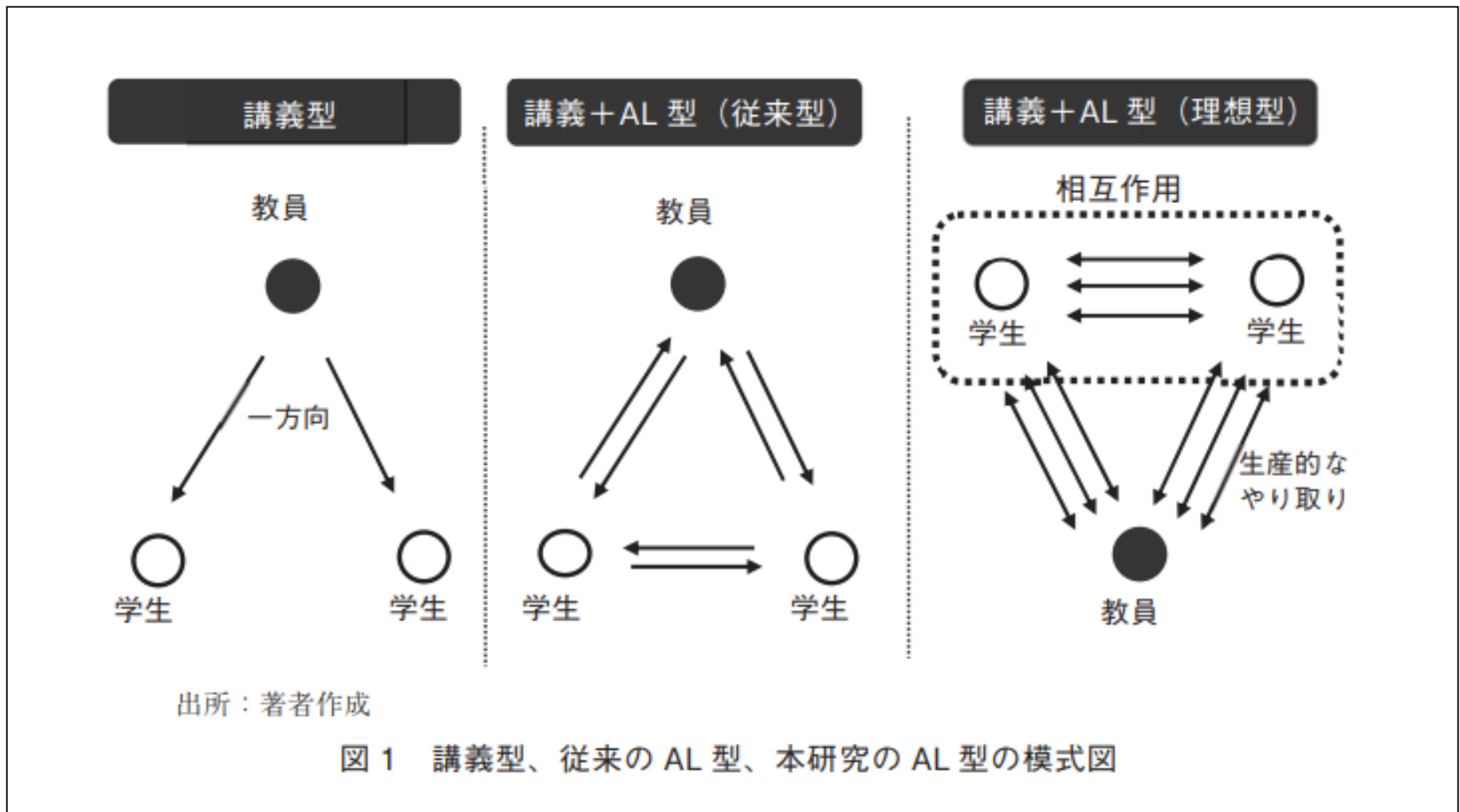
対面授業のビデオ記録を活用した省察 — 経済学大人数アクティブ・ラーニング型授業での実践 —

三田地 真実*
佐藤 智彦**
岡田 徹太郎***

— <要 旨> —

本研究¹⁾では、アクティブ・ラーニング型 (AL型) の大人数経済学授業 (対面: 半期 15回) の中から、担当教員が「最もうまくいった回 (Best: 以下、授業 (B))」と「最もうまくいかなかった回 (Worst: 以下、授業 (W))」と主観的に評価した授業を対象とした。そのビデオ録画を用いて、1) 「マクロな視点」から教員の主観的評価と授業構成との関連、2) 「ミクロな視点」から教員の主観的評価と授業内での教員と学生の双方向性との関連、3) 教員のファシリテーターとしての振る舞いを省察する上で 1) と 2) を組み合わせる有用性、を検証した。1) から、授業 (B) の授業の構成要素は事前の授業計画 (理想型) とほぼ相同であったのに対し、授業 (W) の構成にはずれが生じていたことが示された。2) から、授業の逐語記録とビデオ記録をも

5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法



出典：三田地・佐藤・岡田(2022)

5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法

コミュニケーションの意図分析フォーム
 状況 第5回 worst の授業 (授業日: 5月14日)

教師の言動・意図			学生の言動・意図		
④気付いたこと	②教師の自分の意図・感じていたこと	① 事実 (自分の言語・行動)	① 事実 (学生の言語・行動)	② 推測された学生の意図	⑤ 学生の本当の意図
62:18 62:33	<u>岡田の期待に沿うのは2枚だった。</u>	(5枚目映写)読み上げる (6枚目映写)「おもしろい、ちゃんと国内総生産の定義を考えるときに、おもしろい材料を提供してくれるのが、このシートで、(読み上げる)外国人を含むか含まないか、それは重要な問題なんです。」			(今回は学生本人への確認は実施していない)
63:05	<u>最も期待に沿うのは1枚だった。</u>	(7枚目映写)「で、多分、岡田が期待した課題に一番近いのがこのシートかなーと思います。もうちょっと正確なシートもあったかもしれないんですが、いずれにしろ、パッと目に入って、えっと、この範囲で説明ができるようになっていくださいね、というのがこのシートになるので、一旦、このシートを映し出していききたいと思います。」			
	<u>期待に沿うシートは、選ぶのに困るくらい沢山あるのが普通。それが、ほとんど無かったことに残念と思った。</u>				
64:25	<u>↑意図して写している。=意義ある唯一のシートであり、板書筆記授業に役に立つから。</u>	「ちゃんと板書しながら説明をしたいと思いますが」 (講義)板書しながら			
68:00 まで	<u>この回の授業はインタラクティブで無い！それが眠りを誘い、意味不明の札を呼び...</u>		<u>真面目に板書筆記の講義を聞く。</u> <u>(この辺りは寝ていない)</u> <u>→板書だとノートテイクしておかないと、と言う心理からか?</u>	<u>聞かなきゃ。</u>	
	<u>→見直しの最大の要因。</u>		<u>それでもだんだん頭が下がっていき様子が見える。最後の方では相当数が撃沈したと思われる。</u>	<u>もう面倒くさ。</u>	

吹き出し (教師側):

- (1) Tは何をしたかったのか? (意図)
- (2) Tは何をしたのか? (実際の行動)
- (3) Tは何を考えていたのか? (思考)
- (4) Tは何を感じていたのか? (思考)

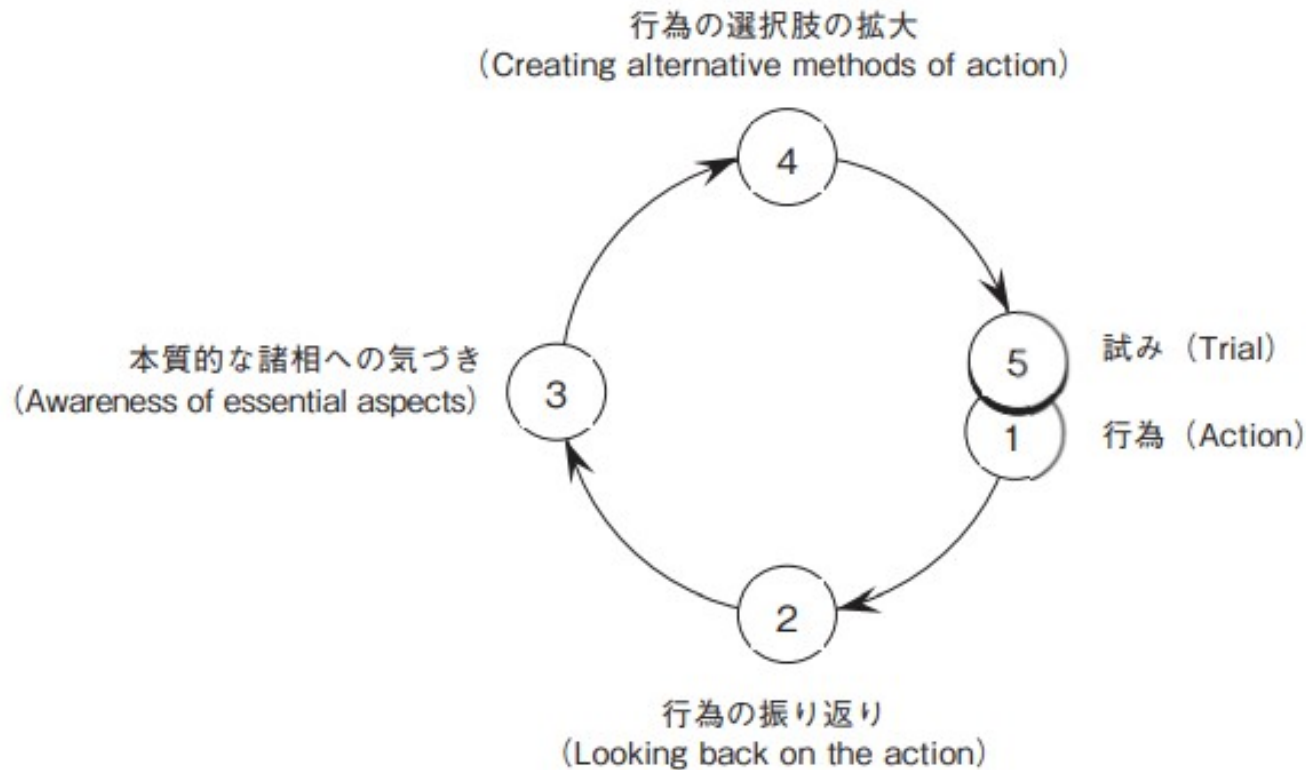
吹き出し (学生側):

- (0) 文脈
- (5) St.は何をしたかったのか? (意図)
- (6) St.は何をしたのか? (実際の行動)
- (7) St.は何を考えていたのか? (思考)
- (8) St.は何を感じていたのか? (感情)

出所: 著者作成
 注: フォーム内の説明: T = 教師, St. = 学生, 装飾なし文字列 = 動画からの文字起こし部分。下線部分 = 担当教員が動画を見直して加筆した部分。吹き出し部分 = コルトハーヘンの9つのエリア(0)~(8)に相当する部分(実線:教師側、破線:学生側)。吹き出しは、「Korthagenの9つのエリアの問い」に相当する箇所を示したもの。

図2 コミュニケーションの意図分析フォーム (記入例)

5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法



出典：Korthagen 2001=2010: 54

図4 省察の理想的なプロセスを説明する ALACT モデル

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

6. 実践課題（1）

グループワークのやり方（プロセス）の見直し

・教示は丁寧になされているか？

考える時間は設定されているか？

人数は適切か？

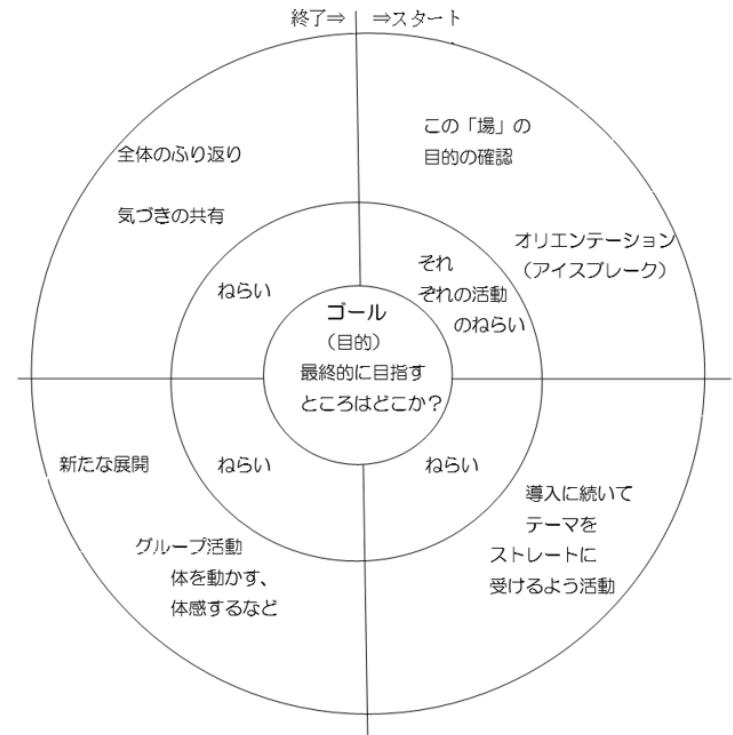
役割分担（司会、記録、発表者等）は？

時間は適切か？

6. 実践課題（2）

授業デザインの見直し

- プログラムデザイン曼荼羅を使ってみる
- 授業のゴールは明確か？
- 時間配分は適切か？
- 活動の流れはどうか？



6. 実践課題（3）

授業実践のやり方（プロセス）の見直し

コミュニケーションの分析フォーム						
観察日： _____		観察場面： _____		観察者： _____		
自分の側の言動・意図				相手側の言動・意図		
④気付いたこと	②自分の意図・感じていたこと	①事実（自分の言語・行動）	やりとりの方向（矢印）	①事実（相手側の言語・行動）	③推測される相手の意図	⑤相手の本当の意図（相手に確認する）

ファシリテーション各論Ⅱの目次

1. 教育活動とは？
2. 教育の3つの方法
3. うまくいくグループワーク
4. 5つのファシリテーションスキル
5. ファシリテーション力を向上するための具体的手法
6. 実践課題

ファシリテーション各論Ⅱ 引用文献など（1）

- ・ F. コルトハーヘン（2010）「教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ」学文社
- ・ 三田地真実・佐藤智彦・岡田徹太郎（2022）対面授業のビデオ記録を活用した省察、名古屋高等教育研究、第22号、245-260
- ・ 三田地真実（2018）学生の行動を見据えて、「機能するグループワーク」を企画・実施するために：行動分析学とファシリテーションの視点から、法政大学教育研究、第9号、27-39
- ・ 文部科学省（2014）アクティブラーニング失敗事例ハンドブック

ファシリテーション各論Ⅱ 引用文献など（2）

- ・ 中野民夫（2017）「学び合う場の作り方」 岩波書店
- ・ 中野民夫（監修）三田地真実（2013）「ファシリテーター行動指南書」 ナカニシヤ出版
- ・ 桜井茂男（2004）「たのしく学べる教育心理学」 図書文化

■ 紹介した動画教材

「星槎大学オンライン授業運営のコツ」

<http://www.seisa.ac.jp/form/online.html>

ファシリテーション動画の全体構成

1. ファシリテーション総論
2. ファシリテーション各論Ⅰ
(会議・話し合いに活用するファシリテーション)
3. ファシリテーション各論Ⅱ (本動画)
(授業に活用するファシリテーション)
4. ファシリテーション各論Ⅲ
(学校経営に活用するファシリテーション)

To be continued !